

平成 28 年度第 2 回羽咋市まち・ひと・しごと創生総合戦略会議録

日時 平成 28 年 10 月 26 日（水） 19：00～21：30

場所 羽咋市役所 401 会議室

出席者

- 委員長：岩城 和男（羽咋市社会福祉協議会会長）
- 委員：松永 義民（羽咋市商工会理事）
- 若城 はる美（羽咋市観光協会協会理事）
- 澤田 英三郎（はくい農業協同組合総務部長）
- 波木 哲次郎（羽咋郵便局：邑知郵便局長）
- 西 孝志（七尾公共職業安定所羽咋出張所所長）
- 前田 美佳（羽咋市教育委員会教育委員）
- 牧野 利明（羽咋市校長会：邑知中学校校長）
- 大屋 英樹（日本政策金融公庫金沢支店支店長）
- 中村 史人（羽咋市銀行会：のと共栄信用金庫ふるさと支援室次長）
- 稲垣 賢一 株式会社北國新聞社羽咋総局長）
- 酒井 恵美（羽咋市青年団協議会会長）
- 岩城 和男（羽咋市社会福祉協議会会長）
- 河島 佳江（羽咋市各種助成団体連絡協議会会長）
- 大門 留美（公募委員：一般）
- 欠席委員：大林 浩（創和テキスタイル株式会社代表取締役社長）
- 濱邊 國紀（羽咋地域ライフ・サポートセンター羽咋幹事）
- 小塚 泉（株式会社北陸中日新聞羽咋市局局長）
- 柳澤 豊志（羽咋市町会長連合会会長）
- 轟 千栄子（NPO 法人わくわくネットはくい会長）
- 新田 聡（公募委員：一般）
- 北山 怜奈（公募委員：学生）
- オブザーバー：西 徳明（石川県中能登総合事務所所長）
- アドバイザー：平子 紘平（国立大学法人金沢大学特任助教）
- 市側出席者：備後 克則（総務部長）
- 八野田正光（産業建設部長）
- 中田 裕之（市民福祉部長）
- 井上 和彦（教育委員会次長）
- 今井 史也（産業建設部次長兼地域整備課長）
- 若狭 義高（企画財政課長兼がんばる羽咋創生推進室）
- 川口 哲治（商工観光課兼道の駅・6次産業推進室）
- 和田 正美（地域包括ケア推進室室長）

金山 幸富	(文化財室長)
西井 健一	(秘書室長)
清水 吉朗	(総務課長補佐)
吉田 浩一	(企画財政課長補佐)
政氏 祥代	(秘書室長補佐)
山本 裕一	(農林水産課長補佐)
片山みゆき	(地域包括ケア推進室長補佐)
松田 義人	(商工観光課主幹)
山本 学	(地域整備課主幹)
西村 美保	(地域整備課係長)
森田 里美	(農林水産課主任)
長浦 達夫	(農林水産課主事)
木村 繁成	(総務課係長)
安達 崇	(がんばるはくい創生推進室係長)
赤井ゆかり	(健康福祉課専門員)
中島 一明	(羽咋市まち・ひと・しごと創生本部事務局主幹)
井上花穂子	(羽咋市まち・ひと・しごと創生本部事務局主事)

会議傍聴者 : なし

審議事項

1. 開会

2. 委員長挨拶

(略)

3. がんばる羽咋創生総合戦略の効果・検証について

(1) 平成 28 年度がんばる羽咋創生総合戦略の取り組みについて

本日の会議のねらい、それから、がんばる羽咋総合戦略の背景を振り返ることから、スタートしたいと思います(資料 0-1、0-2 参照)。

まず、資料の 0-1 ですが、こちらはこれまでの人口減少の推移を表していますが、総合戦略の取組みで 8,828 人を 13,000 人ととどめること、その結果、まちの活力を維持したいという意図があります。資料 0-1 の右側には、平成 28 年度の取組みが 4 本の柱として書かれています。国の様々な補助金、交付金を活用して、このような事業が行われています。今回の総合戦略会議のねらいですが、資料 0-2 をご覧ください。仕事をつくり人の流れ、移住・定住を図り、若い人たちの結婚・子育てを応援し、時代に即した持続するまちをつくる、この

4つの基本目標があります。それに従いまして、基本的方向、基本的施策というものが総合戦略で定められています。具体的な 138 の施策があり、このうち 23 の重要施策については、第1回の総合戦略会議にて検証・評価をしていただきました。今回は残りの 115 施策について、皆様にはこれまでの間に事前に評価していただき、総合評価（事務局案）としては◎（取組内容の深化・発展）が 80 施策、○（取組内容の継続）が 43 施策、△（取組内容の見直し）が 15 施策という結果になりました。◎と○を合わせると 9 割、残りの 1 割が△で取組内容の見直しが必要だということになりました。このような事前評価が提供されており、今回の会議では最終的な効果検証・評価をしていただくこととなります。今日の結果を踏まえて、12 月下旬までに、委員長・副委員長、アドバイザーの先生方にご指導いただき最終的な案をまとめ、委員各位に送付させていただき、確認後に報告させていただく予定です。総合戦略の見直し・改訂は来年度の予算編成に反映させていただき、総合戦略の KPI、一部見直しの段取りを進めていきたいと思っております。今回の会議はこのように展開させていきたいと思っております。非常に重要な会議になりますので、皆様のお力を賜りたいと思っております。よろしくお願いいたします。

(2) 事務局説明

別紙 1～5 参照

(3) 施策に対する効果・検証、評価の考え方について

追加資料 参照

(4) 意見交換・まとめ (80 分間)

(5) 発表

①雇用創出グループ

雇用創出グループは 30 の施策について審査しました。そのうち 12 が重点審査項目でした。結論としては、すべての項目について総合評価は事務局案の通りとしました。重要審査項目のうち 4 件が総合評価△（取組内容の見直し）となりました。その理由としては、まだ実績が出ていない、もしくは実績が見通せない、という点が大きな要因となりました。解決策としては、もっと弾力的に広い視野で施策を見直してほしい、関係機関とも連携してほしい、連携先任せにせずこちらから積極的に働きかけることが必要である、という意見がありました。始まって間もない取組みについては、今の時点ではまだ見直しや拡充については評価ができませんでした。次年度にもこのような評価をする際には、データが沢山出てくると思われるので、さらに突っ込んだ議論が行われるよう

になると思われます。また、評価をする情報が今回の資料では少ないと感じましたので、市から委員へのさらなる情報開示を求めます。

②移住・交流グループ

移住・交流グループの総合評価はほぼ事務局案と一致しています。重点審査項目はほぼ○（取組内容の継続）です。具体的な意見としては、2番の「UIJ ターン希望者と県内企業のマッチング支援」では、すでにある羽咋郡市雇用対策協議会でもっと企業を紹介し、市の連携も含めさらなる企業の登録が望まれる。3番「移住・交流体験施設の整備」では、体験住宅の稼働率が低いので、もっと稼働率を上げるようにすべき。7番「ふるさと応援団による移住情報の発信」では、沙龙的なものにならないように、ふるさと納税や人的交流の推進をもっとすすめるべき。10番「めぐまれた自然・歴史文化財の保存と利活用」については、千里浜なぎさドライブウェイは今でも多様なイベントを開催していますが、若い人だけでなく年齢層の幅広いイベントをより一層進めていくべき。14番「交流人口拡大の基盤となる進路網等の整備促進」では、駅近くに観光案内所の様なものがあればよいが、予算的に困難なので、JRの駅長さん等に協力をお願いするなど何らかの方法で駅前に案内所を設けられないか、等の意見が出ました。おおむね総合評価としましてはほぼ全てが○（取組内容の継続）ということで、今後このまま進めていくべきという結論となりました。

③結婚・出産・子育てグループ

結婚・出産・子育てグループでは、いくつか事務局案と違う評価をしました。それも含め、いくつかの施策をピックアップして発表します。2番「街コン等市内全体におけるさまざまな出会いの場の創出と出会いの支援」は、事務局案と同じ△（取組内容の見直し）です。「街コン」というと飲み屋街をハシゴするというイメージが強く羽咋では難しいのではないかと思うので、羽咋ならではの出会いの場の創出のやり方を考えて取り組んでほしいという期待を込めての△としました。3番「子どもに係る保育料等の軽減」は、保育料の減額競争には限度があるので、羽咋ならではのプラスアルファを考えていこうという意見が出ました。4番「子育て世帯への経済的支援」は、事務局案評価の△（取組内容の見直し）から◎（取組内容の深化・発展）に変更としました。子育て世帯への経済的支援として金券やUF0商品券の発行があるが、子育て現役世代ではなく、お母さん予備軍の若い世代にも周知していけば、羽咋で安心して子育てをしてもらえるのではないか、という意見が出ました。10番「男女共同参画社会の推進」は、施策に対するKPI設定が適切ではないように思われるので、目標値をしっかりと、また実績・分析の報告を願います。16番「体育・健康に関する教育の充実」は、KPIの設定を小学校と中学校とで分けないと、分析・

評価が難しい、ということで△（取組内容の見直し）です。17番「幼保小中の連携、交流活動・事業の推進」は、シートに記載はないが、交流や連携は様々な形で幼保小中で行われているということだったので、△ではなく○（取組内容の継続）の評価にしました。今紹介したもの以外の施策は、事務局案通りの総合評価となりました。

④地域づくりグループ

地域づくりグループでは、40の施策のうち21件が重点審査項目でした。だいたい事務局案と同じでしたが、2件、異なる総合評価をいたしました。1つ目は12番「老朽空き家等への対応」ですが、これはもう羽咋市に限らず全国的な問題であり、事務局の説明によるとこれまで助言した数は49件、うち助言・指導に従って解体した件数が9件ということでした。49件のうちほとんどが羽咋市外の方なので、大変難しい問題なのだと思います。また、一部助成制度があるということですが、最高額50万円で、これまで15件の方がこれを利用して解体したという実績があるそうです。このように事務局からの説明を聞いて、今後更に深刻な問題になっていくと考えられることから、○（取組内容の継続）から◎（取組内容の深化・発展）の総合評価に変更しました。13番「生活支援体制の整備」については、介護保険財政は今後ますます厳しくなっていくと考えられることから、事務局からの説明も聞いて、今後さらに発展させていくべきとのことから◎の総合評価としました。また、2番「若者の移住・定住の促進を図る宅地供給の推進」や3番「若者の移住・定住の促進を図る市営住宅の整備」の施策に、一部の委員から△（取組内容の見直し）の評価で、一本化して深化・発展をとという意見もありましたが、事務局からの説明を聞いてみると、今後評価していく際にも管理していく際にも別々にしておいたほうがよいということになりました。

4. 講評

【オブザーバー：石川県中能登総合事務所 西徳明 所長】

皆様、本当にお疲れさまでした。いち羽咋市民としては、熱心に議論されている姿を見て、感謝を申し上げたいと思います。委員の皆様にはまず、総合評価シートを読んで各々評価をしていただきました。こういう時には、×や△の評価はしづらいものですが、皆様が勇気を持って、色んなお考えのもと評価をしていただいたことが、今日の議論につながったのだと思います。委員の皆様には感謝しかありません。また、今日説明役として出席した市の職員の皆さん、熱心に説明をしている姿から、日ごろから仕事に一生懸命取り組んでいる皆さんが、ここにお集まりなのだと思いました。

振り返ると、ちょうど一年前にこの計画を皆さんで作られました。今日審査し

たのは平成 27 年度の実績ですが、実際は平成 28 年度も半分が過ぎています。ちょうど一年はこの計画に基づき仕事をしてこられたと思います。先ほど総務部長から、総合戦略の見直しについては平成 29 年度の予算編成に反映するという話がありました。今日の議論をより噛み砕いて、一つ一つの皆さんの意見を真摯にとらえていただき、29 年度の予算に反映させていただきたいと思います。

【アドバイザー：国立大学法人金沢大学 平子紘平 特任教授】

皆様お疲れさまでした。各グループを回っていると、市の職員が一所懸命に熱を込めて説明している所が聞こえました。それを聞いて、その説明が戦略効果検証シートの PDCA に最初から入っていればもっと良かったのに、と思いました。委員の方からは、説明を聞いてから施策の意味がわかったという声もありましたし、中身がわかるともっと踏み込んだ議論が円滑に進んで効果的かなと思います。

この総合戦略では、5 年間で目標に向かってがんばるぞ、ということですが、1 年の成果についてどうなのか、一年一年のタームも必要ですが、5 年後にちゃんとつながっていくのか、羽咋市全体の大きな目標につながっていくのかを、2 年後 3 年後の節々を意識しながら見て行く事も必要かと思います。最終的に 5 年タームで見ていくとなると、「自然栽培」等の横断テーマを設けて、4 グループ複合での検討会のようなものがあったら面白いのかなと思います。

また、細かいところですが、×の評価をつけづらいということは仰る通りだと思います。けれども、あえて勇気を出して×をつけることも必要かと思います。例えば、大学の研究費申請の審査の際には、バランスよく評価をするようなルールがあります。ルールがあれば日本人は×等の評価をつけ易い気持ちになるので、皆さんの本音をより引き出せるのかなと思います。

色々な所で聞こえてきた言葉ですが、費用対効果ももう少し見せていけるとよいと思います。予算額も一つですが、一番お金がかかっているのは人件費だと思います。お金が幾らかもそうですが、何人の職員がどれくらいの時間を割いているのか等がわかれば、さらに客観的な評価ができるようになると思います。職員の方のアピールにもなると思います。

5. その他事務局からの連絡事項

(略)

6. 閉会